



夢の本棚

発行所：松居直コレクションプロジェクト
代 表：金戸 美紀予
事務局：石川県小松市 小馬出町10-3
空とこども絵本館
☎ 0761-23-0033
bookrin@city.komatsu.lg.jp

【活動方針】 ①絵本の楽しさを伝える <親子読書の奨励> ②絵本の歴史を学び、進むべき方向を考える <絵本文化の研究>
③市が所有する知的財産として、次世代に正しく伝える <絵本文化の継承>

石井桃子から学ぶ 読書力の基礎 ⑧

絵本の原画の保存を

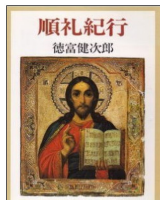
◆河合隼雄先生が文化長官になられました。時に、「国で絵本美術館を作ってほしい。そして、絵本の原画を見事にちゃんと保存してほしい」ということを申し上げました。◆絵本の原画残っており、百年経つても百年経つても、その原画から新しい印刷法でいい絵本を作ることができませんね。◆ヴィクトリア&アルバート美術館へ行きました時に『ピーターラビット』の原画があります。今から百年前と今じゃ印刷方法がもうほんとに違いますから、新しい印刷技術で、このポターの原画を複製することができたらいいと思います。◆百年間、



絵本が読み継がれているということは、大変なことです。絵本も伝承するんだなっていうふうに思いました。

生きる大きな力

◆ロシアのトルストイの館に入りました時にね、本箱にもものすごいたくさん本があるんですよ。それをずっと見ておりましたら、日本語の本があったんです。なんと『順礼紀行』、



「徳富健次郎」と書いてあった。あの本だけが本名で書いてるんです。◆私はその時にほんとはその時にほんとは「ああ、これは蘆花が送って、それからトルストイが手にした本だ」と思いました。その時に、二人がすぐ傍で話をしているような錯覚を持ちました。ほんとにうれ

しかったですね◆本とというのは、そういういろんな歴史の積み重ねの中で、自分の生きていく時に大きな力を与えてくれる、とっても大切な意味を教えてください。◆人生で3回読む

人生で3回読む

◆柳田邦男さんが「人生で3回、絵本を読むのがいい」ということをおっしゃっています。「子どもの時に読んでもらう」、そして「大人になって自分の子どもに読んでやる」、あるいは自分の子どもでなくてもいいですが、「子どもに読んでやる」、それから「高齢者になつてからもう一度絵本を見る、読む」◆私実際に経験しておりますけれど、高齢者になつてから絵本を読みますと、かつて絵本のわからなかったようなことがいっぱい分かります。そして、自分の中の子どものものが鮮明に見えてきますし、あの時にこ

言葉を食べる

◆「大切なものは目に見えない」ってことを『星の王子様』は、しょっちゅう言いますでしょ。言葉は目に見えないんです。字が読めるから目に見えるように思っ



てからもう一度絵本を見る、読む」◆私実際に経験しておりますけれど、高齢者になつてから絵本を読みますと、かつて絵本のわからなかったようなことがいっぱい分かります。そして、自分の中の子どものものが鮮明に見えてきますし、あの時にこ

は目に見えないんだけど、目に見える世界を見事に表現する、そういう力を持つてるんですね。その目に見えない言葉の世界に、どれほど深く入り込んでいくかっていうのが「読書」なんです。◆お子さんが好きな本で繰り返し読んでくれるって本は、徹底的に読んでやってほしいです。特に、2歳、3歳、4歳の時に一番大切です。その頃、子どもが字が読めるようになる前が勝負ですから、その時に「読書力」の基礎ができるんです。◆そうしますと、全部自分の中に取り込んでしまえます。「言葉を食べる」んです。そして、食べて自分のものに消化をしますから、もう繰り返しやって自分のものにしてしまえますね、それが口から出るんです。これ、どの子どもも持っている力なんです。大人はほとんど気が付いていない。